

阿寒湖に抱かれ

「趣」とおもてなし」を味わう

鶴雅の原点。



遊久の里 1階庭園露天風呂



### 鶴雅物語

親と子と、そして孫と始めるもうひとつのプロローグ

見上げれば、満天の星空。まるで天空の露天風呂。時折、白い湯気が星々を隠す幻想的な世界に父と僕は身をゆだねていた。二人で風呂に入るなんて何年振りだろう。照れ隠しのように話しかける。

「三十三年間、お疲れさま。これからは、ゆっくりしなよ」  
しかし、言葉は返ってこない。昔からこういう人なのだ。

父のリタイヤがきっかけだった今回の旅行。トレッキング好きな父のために、知床あたりを考えていたのだが、気づけば母が「ここに泊まりたい」と行き先を決めていた。でも、なかなかどうして、いい場所を選んだものだ。湖面に映る夏の雲、ようやく雪を脱いだ碧々とした山々：北海道に暮らしていても、そう出会うことのない風景。言葉では表しきれない奥深さを感じた。子どもたちも「じいじ、湖と海って何が違うの？」と初めて見る大自然に興奮気味だ。

宿も、とにかく居心地がいい。最近、忙しかったのでリラックスできたのは、久しぶりだった。今こうして浸かっている露天風呂も、自然と一体になれるようで気持ちがいい。さつきエステへ出掛けた妻も思えば、いつもより表情が柔らかかった。

返事のない会話。それでも僕は話しかけた。

「今日は、疲れなかった？」

「いや…」

相変わらず言葉少ない父。だからといって何も考えていないわけではなく人一倍、家族想いだった。ただ不器用なだけ。そう気付いたのは自分に子どもが生まれてからだったけれど。

「…今日は、ありがとう。今日行った畔、実はな…」

そんな無口な父が突然、語り出した。照れくさそうにお湯で顔を拭いながら。

「あいつと新婚旅行で行った場所なんだ」

「ああ…」思わず声が漏れる。

母が真っ先にこの場所を選んだ理由。それは人生の再出発をする夫婦として原点に戻りたかったのだ。そして、僕たち家族がその証人になったのだ。一人前の男として、家族を持つひとりの父親として認められたような気がしてうれしかった。  
この星が降りそうな夜空を、僕は忘れることはないだろう。

網走湖を見渡す丘で  
悠久の記憶に想いを馳せる  
浪漫の旅。



北天の丘 客室から望む網走湖 ※タイプによってはご覧いただけない場合もございます



- ①色とりどりの料理が美しく並ぶ、山海の幸を活かしたオホーツクバイキング。
- ②効能豊かな自家源泉に浸かり、心からのリラックスを堪能する「坐忘の湯」。
- ③ゆったりとした時間が過ごせる長期滞在にも適した和洋室「悠の座」。
- ④至福の意味を知る極上のひとときへ誘うスパトリートメント「ファウラ」。
- ⑤オホーツク文化にふれる休日の始まりは、暖炉のあるラウンジ「回」から。



## 北天の丘

### あばしり湖鶴雅リゾート

Hokuten no Oka Lake abashiri Tsuruga resort

〒099-2421  
北海道網走市呼人159番地  
TEL.0152-48-3211 FAX.0152-48-3220

あかん遊久の里 鶴雅  
TSURUGA Akan Yuku no Sato

〒085-0467  
北海道釧路市阿寒町阿寒湖温泉4丁目6番10号  
TEL.0154-67-4000 FAX.0154-67-2754

1階8階大浴場・露天風呂リフレッシュオープン!



- ①香りに癒されるヒノキ風呂をはじめ多種多彩な風呂をご用意。
- ②北海道の山海の幸を堪能する。旬の素材を取り入れた、こだわりの和食膳。
- ③大自然の絶景を眺めながら寛ぎのひとときが過ごせる別館和洋室。
- ④アイヌ文化にふれながら、いにしへの大地に思いを馳せるギャラリー。
- ⑤日々の喧噪を忘れ、深く、優しく、癒されるトリートメントエステ「ピリカ」。